

研修期間 必修期間（4週または8週）2年次選択期間（4週～）

## I. 対象となる疾患・病態

消化管疾患  
肝疾患  
膵・胆道系疾患

## II. 研修到達目標

### ・一般目標(GIO ;General Instruction Objective) ①

- 1) 主な消化器系症候の診断、鑑別診断や、消化器疾患の病態生理について学ぶ。
- 2) 病歴聴取や身体診察を含めた、消化器疾患の診断法について学ぶ。
- 3) 消化器疾患の標準治療や、検査、治療手技の方法と意義について学ぶ。

### ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ①

- 1) 腹痛、嘔気、嘔吐、便秘異常、黄疸、胸焼け、つかえ感の症候を持つ消化器疾患患者を担当することにより、病歴聴取や身体診察を適切に行った上、疾患の鑑別が出来るようになる。
- 2) 食道・胃・十二指腸疾患、肝疾患、胆嚢・胆管疾患、膵臓疾患などの患者を担当し、各疾患について診断法や、その標準治療を学ぶ。
- 2) 内視鏡を中心とした消化器検査に関する基礎的な知識を身につけ、適応や検査法について学ぶ。
- 3) 急性消化管出血および急性腹痛について学習し、その初期対応が出来るようになる。
- 4) 基本的な腹部CTの読影、腹部超音波検査について学ぶ。

### ・一般目標 (GIO ;General Instruction Objective) ②

医師として基本的な診療態度を身につけ、適切に医療記録を管理した上、evidence を踏まえた decision making が出来るようになり、業務上必要なコミュニケーションが適切に摂れるようになる。

### ・行動目標 (SBOs ;Structural Behavior Objectives) ②

- 1) 腹部診察について学ぶと同時に、個々の患者に配慮した医療面接を行い、適切にカルテ記載を行う。
- 2) 各診療ガイドラインを利用し、消化器疾患の診断、治療法など診療方針決定の方法について学ぶと同時に、方針を指導医と相談し、患者のニーズをふまえて方針決定を行っていく。
- 3) インフォームドコンセントについて学び、患者背景を考慮した方針決定や、情報の伝え方、患者への適切な指示、生活指導などを行う。

## III. 方略(研修場所：消化器病棟、カンファレンス室、内視鏡室、透視室、救急外来)

消化器病棟では、担当患者を受け持ち、指導医と相談しながら適切な病歴聴取、身体診察を行い、ガイドラインなどを利用しながら、適切な診療を決定していく。

毎週水曜日は消化器内科症例カンファレンス、毎週金曜日は消化器内科・外科合同カンファレンスがある。消化器症例の詳細な検討を行うため、担当患者のプレゼンテーションを行いディスカッションに参加する。

内視鏡室では午前中上部消化管内視鏡、午後は大腸内視鏡および治療内視鏡を行っている。担当患者さんの検査および治療内視鏡には参加し、基礎的な検査法、診断法、治療手技について理解を深める。

救急外来では、指導医または上級医と一緒に急性腹痛症、急性消化管出血患者の診療に参加し、理学所見の聴取や腹部写真、CTの読影法、エコー検査の実際について学ぶ。合わせて専門医に受け継ぐまでの初期対応を学ぶ。

#### IV. 評価

担当患者の診療やディスカッション、カンファレンスでのプレゼンテーションやディスカッションを通じ、疾患に対する知識、技術に加え、患者に接する態度なども評価する。

#### V. 研修医への提言

消化器疾患の研修が中心ではありますが、消化器専門疾患のみでなく、複数の診療科に関わる、患者さんが必要とする問題や疾患に、積極的に関わって行く姿勢を見せていただきたいと考えています。またインフォームド・コンセントの考え方や、悪性疾患への配慮、倫理的な事項など、医師にとって配慮すべき事項は尽きません。消化器疾患の診断、治療以外にも、医師としての基礎を学んでいただきたいと思います。